

音楽  
おんがく  
大好き!!  
たいがく10月6日の紙面に続き  
つづけ  
だい  
第2弾さくしか  
あきもとやすし  
作詞家の秋元康さんに  
インタビューしたよ!秋元  
康さん  
じょう かい  
紹介

秋元康さんはAKB48グループや乃木坂46、欅坂46の総合プロデューサーで、みんなにおなじみのヒット曲をたくさんつくっている  
作詞家だよ。でも作詞だけではなく、放送作家や映画監督、漫画の原作者、ドラマの脚本家など、秋元さんの活動はとても幅広いんだ。  
お父さん、お母さんの思い出の曲や映画、キミが大好きな歌やドラマも秋元さんの作品かもしれないね。

## みんなからの質問コーナー

みんなが送ってくれた質問に、秋元さんが答えてくれたよ!

Q. 作詞家をしていて楽しいことはなんですか? (東京都・小学2年生)

A. 自分で書いた詞がひとり歩きして、誰かの「思い出の目次」になっていることかな。「この歌を聴いた時、勉強をがんばってたなー」とか、「運動会で負けた時、この歌に勇気づけられたなー」とか、ぼくの詞を聴いた時にいっしょに思い出してもらえるのがすごく楽しいし、うれしいです。

Q. 作詞家になって大変だったことはなんですか? (茨城県・小学6年生)

A. 今も変わらないけれど、書きたい詞はいっぱいあるのに、作詞の時間がなかなか取れないことかな。いろいろな仕事をしているから、締め切りに間に合わせるのがいつも大変。詞を書き上げて、気がつけば朝だった、ということよくあります。でもそれを苦労と思わないのは自分のやりたいことをやっているからなんでしょうね。

あきもと  
秋元さんからのメッセージ

秋元さんから、みんなに向けてのメッセージだよ!

ゆめ  
夢に向かって、一步ふみだしてみよう!

ぼくの小学生の頃の夢は、たくさん勉強して官僚になることでした。でも17歳の時、ラジオの深夜番組に送った台本がきっかけで、たまたま詞を書く仕事にめぐり合ったんです。作詞を始めて10年近くたって、美空ひばりさんの『川の流れのように』という歌をつくった時、美空さんから「いい歌詞ね」とほめられたのがすごくうれしくて、初めて自分は作詞家なんだと思えたことを覚えています。音楽でも野球でもサッカーでもいい。もしキミにやりたいことや夢があるなら、チームに入ったり、ギターをはじめたり、一歩前へ進んでみてほしいな。振り返れば、ぼくの今はあのラジオへの投稿が始まり。自分から手を伸ばせば、いつか夢に近づけるはず。やるかやらないか、その違いで未来は大きく変わるかもしれないですから。

JASRAC® にほんおんがくちょさくけんきょうかい  
日本音楽著作権協会とは (<http://www.jasrac.or.jp>)

音楽作品を“つくった人”は、作品をつかう人からお金をもらうことができるんだ。そのお金がプロの作詞家、作曲家などの“収入”になるんだ。もし、みんなが勝手に作品をつかったら、収入がなくなってしまう。それでは、新しい作品をつくることに集中できないよね…。著作権があるから、“つくった人”はどんどん新しい作品をつくることができるんだ。

街に出で耳をすませば、たくさんの音楽が聴こえてくるよね。カラオケボックスはもちろん、本屋や、スーパー、レストラン。こうした音楽は、お店などが音楽作品を“つくった人”に許可をもらって流さなきゃいけないんだ。街中で流れているのを耳にしたら、少しだけ、その音楽を“つくった人”的ことも想像してほしいな。

音楽をつかうとき、“つくった人”をさがして許可をもらうのは大変だよね。そこで、音楽をつかうときの窓口としてJASRACがあるんだ。JASRACでは作詞家や作曲家など、音楽を“つくった人”から頼まれて、音楽をつかう人に許可を出し、その時に受け取ったお金(使用料)を“つくった人”に届ける仕事をしているよ。



著作権について学べるコンテンツが盛りだくさん! 「JASRAC PARK」に遊びにきてね。

ジャスラック 学べる

CLICK!  
検索